

ごあいさつ

研究推進部長 丹生 憲一

今年度、柏原高校は「ひょうごスーパーハイスクール (HSH)」の指定を受けました。この事業を進め「スーパー・グローバル・ハイスクール (SGH) アソシエイト校」としての5年目を乗りこえる年とすべく、新たに立ち上がったのが研究推進部です。

今年度入学した73回生が最終学年を迎える年から、大学入試も大きく変わります。特にセンター試験に変わるテストでは、英語の外部試験の扱いはどうなるのか？記述試験の規準は明確に定められるのか？不透明な部分が多いことは確かですが、本校の探究・総合で育もうとしている力が役に立つと信じています。同時に、各教科でも「主体的・対話的で深い学び」につながる授業ができるよう工夫していきますのでご注目ください。

この研究推進部通信「**K★ing** (キング)」では、本校で取り組んでいる教育内容を学校外の皆さんに公開すると同時に、生徒達の授業での様子、教職員の声を紹介します。**K★ing**は「Kaibara」の**K**に、現在進行形を表す**ing**を組み合わせ付けてみました。その間をつなぐ★は「Super Star」。今まさに進行中の柏原高校の取組が、将来の新星・巨星をはぐくんでいく様子をご覧ください。



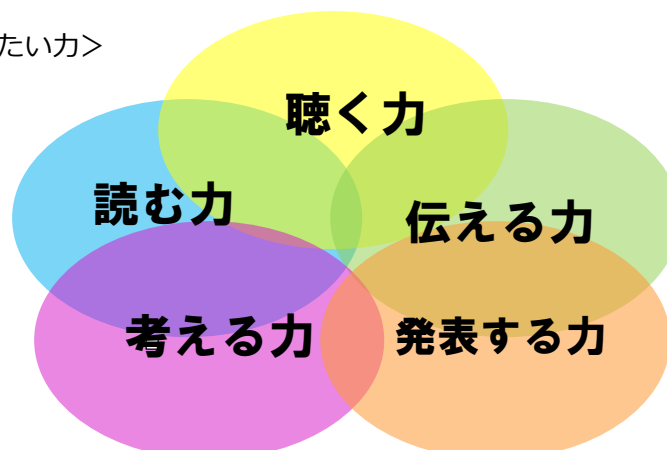
「探究」「総合」について

昨年度までの探究・総合について検証します。

「探究」は知の探究コースの看板でもあり、「地域課題から世界を考える」「丹波から TAMBA へ」というキャッチフレーズが定着してきたところでもあります。わたしたちの町、丹波の持つ財産・資源をいかにアピールするか、丹波の抱える課題をどのように解決するか、ここ数年は地域の方々のご協力のもと、活動内容も系統化されてきていることも確かです。しかし、まだ「世界を考える」というところまでは到達しておらず、過去の卒業生たちが調べたことが先行研究として十分活かされているとも言えません。また、地域の活動に貢献してはいるものの、果たしてそれが「課題研究」となっているのか、という疑問が聞かれることもありました。今年度は「課題研究メソッド」というテキストを使用し、具体的に問いを立て「自分達の研究がどのように社会に貢献できるのか」を考えながら、探究活動を進めていきたいと思っています。その際、必ず先行研究にあたり、先輩達の調べた内容を掘り下げていく手法をとります。そして、2年目には地域で考えた内容を世界的な視点で見直し、海外の教育協力校などとともに共同研究などへと進めていければ…というのが、現段階の構想です。

「総合」は一般コースで3年間取り組んできましたが、学校として系統だった内容はなく、教科担当がその都度知恵をしぼって、生徒達に身につけてもらいたい内容を考えました。ここでも、前の年に行った内容が必ずしも引き継がれるわけではなく、同時期に在籍している生徒達でも、学年によって授業内容が違うということもありました。3年生になると、それまでの活動から離れて、実質的には教科の内容を教えていることも多かったようです。今年度からは、私達研究推進部が3年間を見通した計画を立て、これまでの内容を取り入れながら、柏原高校としての「総合」のありかたを確立します。取り扱う話題や内容はその都度、見直すこととなりますが、身につけてほしい力や活動は一本の柱として残せるように努力します。

<探究・総合で育みたい力>



<探究>

(1)「探究」のねらい

地域課題について学び、世界的な問題と結びつけ、問題解決の方法を提言する。

(2)「探究Ⅰ」の進め方

課題研究で身に付けるべき力について学んだ上で、丹波の抱える問題について、先行研究を踏まえて研究し、ポスター発表する。

(3)「探究Ⅱ」の進め方

「探究Ⅰ」で調べた内容を元に、地域の課題から世界に目を向けて、論文を書き進め、スライドを使って発表する。

<総合>

(1)「総合」のねらい

さまざまな角度から、世の中のことを学び、自己実現へつなげる。

(2)「総合」の進め方

歴史、異文化、進路実現をテーマとし、1・2年次は「柏高の歴史」「台湾修学旅行」を取り上げます。

(3)3年間の流れ

1年次 柏原高校史

柏原高校の歴史を、丹波やその地域が育んだ人々について学び、自ら何のために学び、将来どんな生き方をすべきかを考える。

2年次 台湾修学旅行に向けて

修学旅行で訪れる台湾の歴史や文化を学び、世界の情勢、言語などにも関心を向け、世界の中での自分のあり方を考える。

3年次 進路実現に向けて

自分の希望する進路について調べ、志望理由や自己PRを他人に伝えられるようになる。文章を要約し、小論文を書く。

4月13日（金）第1学年総合 第一回

4月は「柏原高校の歴史」シリーズの第1クール。講話を聴いて、内容をまとめ、人に伝えるという活動に入ります。第一回目は、柏陵会館にて研究推進部副部長、土元優一教諭が1学年2~6組を前にガイダンスを行いました。

入学からこの日まで、聞いたり読んだりした内容（例「交通安全講話で話しに出た、柏原町内の危険個所について説明せよ」）について、隣の人に伝えなさいという指示を受けて、生徒たちは記憶を頼りに確認合っていました。ここでは、メモなしで話の内容を覚えていることの難しさ、さらにはそれを人にわかりやすく伝えることの難しさを感じられたようです。①「話を聴く際にはメモを用意する」②「そのメモは読むだけでなく、まとめて伝えられるようにする」③「わかりやすく伝わるように工夫する」ことを心がけるようにアドバイスを受けました。

次回は17日からのオリエンテーション合宿での学校長講話があります。24日（火）には前学校長による講話「柏原高校の歴史」が予定されています。20日と27日の両日はそれぞれの講話をまとめて他人に伝える予定です。おうちでも、食卓で「校長先生のお話はどんな内容だった？」と尋ねていただくと良い練習になるかと思います。ぜひ、聞いてみてください。

